

# 11. 星型描寫ニ就テ

鍋谷堅次郎(東北大)

§1.  $W = f(z)$  が單位円  $|z| < 1$  内於テ正則ナ、ソレヲ  
一ツノ凸領域ニ等角ニ描寫スル函数トシマス。E. Study 氏  
ニヨリ、任意ノ  $\gamma$  ( $0 < \gamma < 1$ ) 内對シテ  $|z| < \gamma$  内ノ領域ニ  
亦、 $W = f(z)$  一ツノ凸領域ニ描寫サレルコトヲ知ラ  
レテ居マスガ、コレニ對シテ T. Rado 氏 (Math. Ann.,  
102, 1930) ハ一ツノ *hübsch* ナ証明法ヲ與ヘマシタ。コ  
ノ方法ニヨルト次ノ様ナ事實ニ容易ニ証明サレルコトハ W.  
Seidel 氏並ビニ高橋進一君ガ指摘サレマシタ。即チ、  
 $W = f(z)$  が單位円内  $|z| < 1$  内於テ正則ナ、簡單ノタヌニ  
 $f(0) = 0$  ト假定シテ單位円  $|z| < 1$  内ヲ  $W$ -平面ニ於ケル原  
点ニ關スル一ツノ星型領域ニ等角ニ描寫スル函数トシマス。  
然ルトキハ、任意ノ  $\gamma$  ( $0 < \gamma < 1$ ) 内對シテ  $|z| < \gamma$  内亦  
 $W$ -平面ニ於ケル原点ニ關スル一ツノ星型領域ニ描寫サレマ  
ス。Study ノ定理ト呼バレテ居ル上ノ事實ハ元ハ Carathéodory  
ト Blaschke ノ共著、Vorlesungen  
über ausgewählte Kapitel der Geometrie, I,  
p. 109 カラ出テ居ルノダスガ、之レニ對スル文献トシテハ古  
クハ Carathéodory, über die Studysche  
Rundungsschranke (Math. Ann., 79, 1919, p. )

がアリ、最近デハ Carathéodory の指導ヲ受ケテ Ernst  
 Peschl の學位論文 (Math. Ann., 106, 1932, p. )  
 がアリマス。私ハニ、Peschl の研究ニ別載サレテ上述ノ  
 Rado 氏ノ論文ヲ終尾サセタ、サソセカナー研究ヲスコト  
 が出来タノデスガ、ソノ要旨ヲ次ニ述ベテミタイト思ヒマス。  
 私ニハ未完成ト考ヘラレマスガ、忙シサニマギレテ、勞ヲイ  
 トハス積リデハ下リマスガ其後久シク再ビ筆ヲ取レ機會ノナ  
 イノヲ残念ニ思ツテ居マス。

§2. 初メニ一ツ定義ヲ與ヘマス。無限遠点ヲ含マヌ一  
 ツノ單一連結ノ領域ガソノ有限遠ニアル境界上ノ一一定点ニ関  
 シテ、ソノ点トソノ領域内ノ任意ノ一点トヲ結ブ線分上ノ点  
 ヲ総テ含ム場合ニ、ソノ領域ノコトヲソノ境界上ノ一点ニ関  
 シテ里里デアルト云フコトニシマス。ソコテ次ノ様ナ定理ガ  
 成立シマス。

定理  $f(z)$  ヲ單位円内  $|z| < 1$  ニ於テ正則且ツ單葉デ  
 アルトレ、 $W = f(z)$  ニヨリ  $|z| < 1$  ガ描寫サレテ出来ル  
 $W$ -平面ニ於ケル領域  $D$  ヲソノ境界上ノ一点  $W_1$  ニ関シテ里  
 型デアルトシマス。  $W_1$  ニ於ケルコノ領域ノ内部ヘ一ツノ cut  
 ニ對シテ  $z$ -平面デハ單位円  $|z| = 1$  上ノ一点デ終ル矢張り  
 一ツノ cut ガ對應シマス。此ノ cut ノ end-point ハ  
 簡單ノクメニ  $z = 1$  ト假定シテモ支障アリマセン。然ルト  
 キハ單位円ニ含マレ  $z = 1$  ニ於テソノ内部カラ切スル任意ノ

円ノ内部ニ亦  $W_1$  = 開スルーツノ星型領域ニ描寫サレマス。

此ノ定理ヲ証明スルノニ、 $W_1$  = 於テ  $D$  ノ任意ノ一点  $f(z)$  ト  $W_1$  ヲ結ブ線分カラナルーツノ  $cut$   $\gamma_w$  ヲ作りマス。コノ  $cut$  = 對應シテ  $|z| < 1$  デモーツノ  $cut$   $\gamma_z$  ガキマリマスガ、ソノ  $end-point$  ラ簡單ノタメニ  $z=1$  トシテオキマス。  $t$  ヲ區間  $0 < t < 1$  ノ任意ノ定マツター一点トシマスト  $\gamma_w$  上ノ  $tf(z) + (1-t)w_1$  = ハ  $\gamma_z$  上ノ  $z_1 = f^{-1}(tf(z) + (1-t)w_1)$  ガ對應シマス。次ニ  $\gamma_w$  上ノ  $tf(z_1) + (1-t)w_1 = t\{tf(z) + (1-t)w_1\} + (1-t)w_1 = t^2f(z) + (1-t^2)w_1$  = ハ  $\gamma_z$  上ノ  $z_2 = f^{-1}(tf(z_1) + (1-t)w_1) = f^{-1}(t^2f(z) + (1-t^2)w_1)$  ガ對應シマス。  
 $\gamma_w$  上ノ  $tf(z_2) + (1-t)w_1 = t\{tf(z_1) + (1-t)w_1\} + (1-t)w_1 = t^2f(z_1) + (1-t^2)w_1 = t^2\{tf(z) + (1-t)w_1\} + (1-t^2)w_1 = t^3f(z) + (1-t^3)w_1$  = ハ  $\gamma_z$  上ノ  $z_3 = f^{-1}(tf(z_2) + (1-t)w_1) = f^{-1}(t^3f(z) + (1-t^3)w_1)$  ガ對應シマス。以下ハ同様ニシテ順ニ進ムコトが出来マス。ソコデ若シ  $N$  ノ十分大キイ或整数ノ値ヨリ大キイ然テノ整数  $n$  = 對シテ

$$\frac{1 - |f^{-1}(tf(z_{n-1}) + (1-t)w_1)|}{1 - |z_{n-1}|} = \frac{1 - |z_n|}{1 - |z_{n-1}|} > 1$$

デアルトシマス。  $n > N$  = 對シテ

$$1 - |z_n| > 1 - |z_N|$$

トナリマス。 一方  $f(z_n) = t^n f(z) + (1-t^n)w_1$  ナスカラ

$n \rightarrow \infty$  のとき

$$f(z_n) \rightarrow w_1$$

トナリマス。故 =  $n \rightarrow \infty$  のとき

$$z_n \rightarrow 1$$

トナリ、コーシーツノ矛盾が得ラレマシタ。従ッテ  $\{n\}$  の  
適當、sub-sequence  $\{n_p\}$  = 對シテ

$$\frac{1 - |f^{-1}(tf(z_{n_p}) + (1-t)w_1)|}{1 - |z_{n_p}|} \leq 1$$

トナル様ナ  $\{n_p\}$  がアリマス。コノ結果 = ヨリ我々ハ  
Schwarz, Lanma. ヲ擴張シタ Julia-Cara-  
théodory, 定理ヲ 函數  $f^{-1}(tf(z) + (1-t)w_1)$  = 通用ス  
ルコトが出来マス。

$$\lim_{n_p \rightarrow \infty} \frac{1 - |f^{-1}(tf(z_{n_p}) + (1-t)w_1)|}{1 - |z_{n_p}|} = \alpha \leq 1$$

デアリマスカラ、 $z$  が單位円 = 含まレ  $z=1$  = 於テ、ソレ =  
内部カラ切スル任意ノ定マツターツノ円内 = アルトキハ、  
 $f^{-1}(tf(z) + (1-t)w_1)$  モコノ円ノ内部 = アルコトが言ヘマ  
ス。言ヒカヘルト  $z$  が上述ノ様ナ円内ノ点デアアルト  $tf(z)$   
 $+ (1-t)w_1$  ハ  $w = f(z)$  = ヨリ上述ノ円 = 對應スル  
 $w$ -平面上ノ領域ノ点トナリマス。 $t$  ハ區間  $0 < t < 1$  ノ任  
意ノ点デアリマスカラ、我々ノ定理ハ証明サレマシタ。函數  
 $w = f(z)$  ハ此ノ定理ノ條件 = 叶フ具体的ノ例ガ、ソノ星型

ノ頂点ハ  $W = -\frac{1}{4}$  デス。

上ノ定理ノ他ニ未ダ二三ノ定理ガアルノデスガ一例トシテソノ中ノ一ツヲ列ベマス。

**定理**  $f(z)$  ヲ單位円内  $|z| < 1$  デ正則且ツ單葉デ、 $z$  ノ *real* ノ値ニ對シテ *real* ノ値ヲ取リ、 $|z| < 1$ 、 $\Im\{z\} > 0$  ナル領域ヲ  $W$ -平面ニ於ケル一ツノ凸領域ニ等角ニ描寫スル函數トシマス。然ルトキハ  $z$ -平面ニ於ケル実軸ト  $+1$  及ビ  $-1$  ヲ通ル任意ノ円ノ弧ニヨリカゴマレ  $|z| < 1$  ニ含まレル領域モ亦一ツノ凸領域ニ描寫サレマス。

此ノ定理モ前ト同様ノ方針デ矢張り一種ノ Schwarz  
ノ Lemma ノ擴張ヲ用ヒテ証明サレルノデスガ、ソノ  
Lemma 及ビ上述ノ Julia-Carathéodory ノ定理ニ  
就テハ Carathéodory; Conformal Representation  
(Cambridge Tracts. No. 28) ヲ参照シテ  
下サイ。

§3. 此ノ前ノ「單葉函數ニ就テ」ニ二三ノ補足ヲシタ  
イト思ヒマス。

$$W = f(z) = z + a_2 z^2 + \dots$$

ヲ單位円内デ正則デ

$$f'(z) \neq 0$$

デアルトシマス ト  $|z| = r$  ( $0 < r < 1$ ) ニ對應スル  $W$ -平面  
上ノ曲線  $C_r$  上ノ  $z$  ニ對應スル一ノ點ニ於ケルコノ曲線ノ曲率

ハ

$$\frac{R\left\{1 + \frac{zf''}{f'}\right\}}{|f'|}$$

が與ヘラレマス。故ニ  $C_r$  上ノ曲率ガ 0 トナル点、即チ変曲点ハ

$$R\left\{1 + \frac{zf''}{f'}\right\} = 0 \quad |z| = r$$

或ハ

$$\text{amp}\left\{1 + \frac{zf''}{f'}\right\} = \frac{\pi}{2} \quad |z| = r$$

ニヨリ定マリマス。故ニ此ノ前述ベタ頂点ノ數ニ関スル極限  
 値ノ十分條件ト同様ニシテ任意ノ  $r$  ニ對シテ  $C_r$  上ノ変曲点  
 ノ數ガ高クニツデアルタメノ十分條件トシテ  $C_r$  ガ卵形線デ  
 アルトイフ性質ヲ取レコトガ上來マス。コレヲ函数  $f(z) =$   
 對スル條件ヲ表ハスナラバ

$$R\left\{1 + \frac{z \frac{d^2}{dz^2}\left(1 + \frac{zf''}{f'}\right)}{\frac{d}{dz}\left(1 + \frac{zf''}{f'}\right)}\right\} > 0$$

トナリマス。ココニ注意スベキコトハ  $r$  が十分小サイトキハ  
 変曲点ガ全然ナイト云フコトマス。

次ニ單葉函数論ヲハ

$$\frac{d \text{amp } f(z)}{d \text{amp } z} = R\left(\frac{zf'}{f}\right)$$

ナル函数が重要な意義ヲ持ツテ居ますが、之ヲ角速度ト假  
呼ブコト = スレバ

$$\frac{d^2(\text{amp } f(z))}{d(\text{amp } z)^2} = \Im \left\{ \frac{zf'}{f} \left( 1 + \frac{zf''}{f'} - \frac{zf'}{f} \right) \right\}$$

ヲ角加速度ト呼ブコトが出来マス。コノ様ナ *Quantity*  
= 就テモ研究スベキ問題ガナイデセウカ。又檢矩君ガ注意セ  
ラレタ様 =

$$w = f(z) = z + a_2 z^2 + \dots$$

ガ  $|z| < 1$  デ正則デ

$$\frac{f(z)}{z} \neq 0, \quad f'(z) \neq 0$$

ナル條件ヲ満足スルトキ、 $|z| = r$  ( $0 < r < 1$ ) = 對應スル  
W-平面 = 於ケル曲線  $C_r$  ト原点カラ出ル *Radius-Vector*  
ノ交点 = 於ケル  $C_r$  ノ法線トソノ *Radius-vector* ノナ  
ス角ガ最大 = ナル点デハ

$$\Re \left\{ 1 + \frac{zf''}{f'} - \frac{zf'}{f} \right\} = 0$$

トナリマス。尚此ノ前述ママシタ頂点ノ數ガ二ツアレタメノ  
必要 = シテ且ツ十分ノ條件 = 就テモ共々 = 考究シタイト思ヒ  
マス。研究スベキ問題ハ澤山アルト思ヒマスガ得テラレタ結果  
ハ機ヲ見テ悉表スルコト = 羨シマス。

§ 4. 函数ノ  $\Omega$ -点 = 関スル *Kleine Bemerkung* ヲ  
述ベテ終ルコト = シマス。

## 定理. 函数

$$f(z) = a_0 + a_1 z + \dots + a_n z^n + \dots$$

ヲ  $|z| < 1$  ナ正則ナ

$$\frac{1}{2\pi} \int_0^{2\pi} |f(re^{i\theta})|^2 d\theta \leq M, \quad 0 \leq r < 1; \quad M > 0$$

ナル條件ヲ満足スルモノトシマス。  $n \geq 1$  = 對シテ

$$M \geq |a_n| > M \left( 1 - \frac{n^n}{(n+1)^{n+1}} \right)$$

ナルトナハ  $f(z)$  ハ常 =

$$|z| < \sqrt{\frac{n}{n+1}}$$

ナル領域内 = 丁度  $n$  個ノ零点ヲ持ツ。コノ限界  $\sqrt{\frac{n}{n+1}}$  ハヨリ大キクスルコトモ、ヨリ小サクスルコトモ出来マセン。

コノ定理ハ代数方程式ノ根 = 問スル、ヨク知ラレタ Pellet  
ノ定理ヲソノマ、累級数 = 拡張シタモ、(Walsch, *Annals of Math.*, 1928?) = 昭和七年ノ帝國學士院記事 = 於ケル能代君ノ論文 = アル方法ヲ應用シテ得ラレマス。

§5. 本紙上談話會誌上 = 載セテ頂イタ拙文、全体ガ私  
ノ只今マデノ研究ノ大体ハ盡サレテ居ルト思ヒマス。今更申  
シマスノモ可笑シイ位デ御座イマスガ此ノ際學生時代カラ主  
トシテ御指導ヲ受ケマレタ藤原先生並 = 寛田先生 = 衷心カラ  
深イ感謝ノ意ヲ捧ゲマス。私ノ研究ニ輸ラカデモ見ルベキモ



ノが御座イマシタナラバ、ソレハ偏ニ両先生ノ御功績ニ帰ス  
ベキデ御座イマス。此ノ可弱イ缺点ニ満チター個ノ人間が今  
日アル処マデ辿リ來レコトが出来マシタノハ私ノ両親ハモト  
ヨリ、藤原先生、窪田先生ヲ初メトシテ幼少ノ頃カラノ諸先  
生方、先輩諸兄、親戚知人及び友人並ニ生徒諸子ノ御蔭ニヨ  
ルコトヲ思ヒ、心カラノ祈リト感謝ヲ捧ゲマス。又藤原先生、  
窪田先生並ニ其他ノ諸先生方ニハ將來モ長ク私達ノ上ニ御慈  
愛ニ充テツカ強イ御指導ノ手ヲ垂レ賜ハラシコトヲ幾重ニモ  
御願ヒ申上げマス。

(12・18受取)